

〔新企画〕

グローバルリーダーズ

The Global Leaders



第1回

ICAEW会長

Hilary Lindsay



近年、会計プロフェッションを取り巻く環境は様々に変化している。グローバル化のさらなる進展による人の移動やビジネスの活発化のほか、複雑に絡み合う規制、テクノロジーの進展、社会からの期待の拡大など、会計プロフェッションが直面する課題は多い。このような中で、会計職業専門家団体においても、これらの課題に、どのように向き合い会計職業専門家を支えていくのかについて検討が進められており、柔軟に変化し常に進化していくことが求められている。

会計職業専門家団体やその資格など、会計プロフェッションを取り巻く最近の状況については、本誌2014年3月号から2015年1月号において「会計プロフェッションをめぐる国際動向」として紹介した。会計職業専門家資格の種類や付与団体の増加、世界的展開を拡大する団体の

存在や、競争力を高めるための団体間の合併、そして、会計職業専門家を目指す学生のニーズの変化など、会計職業専門家団体が抱える課題は多様化している。そこで、本連載では、現在、これらの課題にどのように各団体が取り組んでいるかを紹介するとともに、これらの団体の連合体である国際会計士連盟(IFAC)やアジア・太平洋会計士連盟(CAPA)においてどのような取組みが進められているのかを紹介するため、各組織のリーダーの声を紹介することとしたい。

なお、会計プロフェッションに関する資格制度や各会計職業専門家団体の権限等は、各国・各団体で様々に異なり、日本の制度とは異なる様相を呈していることに留意が必要である。

第1回目は、イングランド・ウェールズ



勅許会計士協会 (ICAEW : Institute of Chartered Accountants in England and Wales) 会長のHilary Lindsay氏からの寄稿記事を紹介する。ICAEWは、1880年に設立された協会で、ロンドン本部及び英国内支部のほか、海外にも拠点を置き、全世界で約14万7,000名の勅許会計士を抱える大規模な国際的勅許会計士協会である¹。Lindsay氏は、2016年6月にICAEWで2人目の女性会長として就任した。ICAEWの会長任期は1年である。Lindsay氏は、1974年に勅許会計士資格を取得し、会計事務所及びICAEWでの勤務並びに役職等を経て、オープン大学で博士号(教育学)を取得後、同大学の教授となり、英国会計テクニシャン協会(AAT UK)²の会長を2011年から2012年に務めたのち、ICAEWの会長に就任した。

会長就任に当たって、Lindsay氏は、自身の会長任期中のテーマとして、「順応性(adaptability)」と「包摂性(inclusivity)」を掲げている。技術革新、英国の欧州連合(EU)からの離脱、租税回避など高まるタックス・アドバイザーへの批判、また、国際連合総会で2015年に採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」への対応など、プロフェッションとして、常に移りゆく状況に適応し進化していかなければならないこと、そして、世界各国に会員を持つ組織の会長として、様々なバックグラウンドを持つ各国の会員のニーズに向き合い、キャパシティ・ビルディングなどの取組みを通じて、会計プロフェッションとして変化をもたらす、価値観を共有する関係者と長期的な関係を築いていくことで多様性を実現していくことが重要であると指摘している³。

ICAEW会長

Hilary Lindsay

成長を続ける勅許会計士 —生涯学習の重要性

ICAEWの勅許会計士としての長いキャリアの中で、私は常に次世代の人材開発に尽力してまいりました。会計プロフェッションは、変化に対応し、世界経済の持続的な成長に寄与するため、多くのプレッシャーにさらされています。時代が変化していく中で、私たち会計職業専門家は、革新的な技術やグローバリゼーション、高まる相関性に順応し、そして、取り残されないようにすることが求められています。会計職業専門家団体は、継続的な専門能力開発を奨励し、生涯学習の重要性と、変化し続ける状況に対応するために必要なスキルや知見を磨いていくことの大切さを訴えていかなければなりません。私たちは自身にこう問いかけなければならないのです。「私たちは、未来を作っているか、それとも影響力のない受け身の傍観者になっているのではないか。」

技術が革新する世界

最先端を走り続けるために、私たち会計職業専門家は、職場に変革をもたらす最新の技術を熟知しておく必要があります。技術の進展によって新たな可能性が生まれ、会計と財務の分野は常に変化しています。例えば、現在、監査人は、サンプルベースではなく、全ての会社の取引を追跡することができるようになり、データがさらに信頼性の高いものになりました。また、クラウドコンピューティングに

よって、より効率的で協調的な方法での作業が可能になりました。さらに、ビッグデータを活用することで、例えば、顧客の嗜好に関する重要な洞察が得られるようになり、企業的意思決定手続の補助とすることが可能になっています。財務に関わる新しい技術は、企業のコスト削減や売上増に貢献するでしょう。決済プラットフォームによって、取引が迅速化し、事業の効率性が高まります。こうした技術に精通した人材は、他の同僚と比較して、今後、明らかに優位に立ることでしょう。

また、サイバーセキュリティも会計職業専門家にとって非常に重要性を増しています。企業は、自社のシステムや保管するデータだけでなく、顧客のアカウントや情報をもリスクにさらす可能性があるサイバーセキュリティ攻撃に対して、確実に対処できるようにしておく必要があります。機密性の高い情報を扱う会計職業専門家や監査人は特に注意が必要であり、適切に情報を取り扱い、保管することが求められます。一般的にサイバーセキュリティ攻撃の対象となるのは大企業だと思われがちで、確かにそうした大企業がメディアから注目されることは多いでしょう。しかし、実際は、中小企業もサイバーセキュリティ攻撃の対象となりやすく、適切に対処できるようにしておく必要があります。

サイバーセキュリティは、単なるIT関連の問題ではありません。事業の最優先課題として、関係者全員にとっての課題としてとらえられるべきです。上級管理職や役員は、組織内全体のコミュニケーションを改善し、IT専門家と協働して、複雑な技術言語を、より事業に則したも

のに翻訳するに当たり、要となる役割を果たさなければなりません。ITと事業リスクへの協同アプローチの欠如及びサイバーセキュリティに対する説明責任の欠如は、ICAEWが2016年10月に公表したレポート「Audit Insights: Cyber Security」において、重要なリスクとして掲げられています。さらに同レポートでは、上級管理職がIT専門家と緊密に連携し、システムの運用体系を十分に理解することにより、危機管理計画を策定することができるようになり、早期にリスクを発見し、取返しのつかない結果を回避することができるかと指摘しています。もし、企業の主要な運用システムがハッカーの標的になれば、孤立し、競合に取り残されるだけでなく、その存在そのものが危機にさらされることになるのです。

持続可能性もまた、私たち会計職業専門家がこれから取り組むべき課題の1つです。より幅広い領域において、ビジネスが果たすべき役割に注目が集まっています。公共の利益に則して行動するという事は、単に財務諸表が「正しく適正である」ことを保証すればよいものではありません。会計職業専門家はそのスキルを駆使して、事業者が資源を有効に活用できるように支援し、自然資本を会計処理するための最善の方法を見つけ出し、持続可能性の最大の擁護者として活躍することが求められているのです。ICAEWは「自然資本連合(NCC: The Natural Capital Coalition)」の創立メンバーでもあり、その理事会及び諮問グループに名前を連ねています。NCCは、事業における自然資本や社会資本の価値評価の方法の開発を支援することを目的として設立された、多様な利害関

係者から構成されるグローバルなプラットフォームです。その目的は、地球上の自然資本を使い果たすのではなく、保全し、育成するよう、企業行動に変革をもたらすことにあります。情報共有及び学習が当連合の活動の中核をなしています。ビジネスの世界をより持続可能なものにするために、様々な分野の職業専門家がこのプロジェクトに貢献しています。

会計職業専門家と資格の向上

英国勅許会計士(ACA)は、世界的に名声の高い資格として認知されています。英国においてACAは、会計事務所のシニア・パートナーであったり、起業家として創業していたり、ロンドン証券取引所のFTSE100社の財務役員やCFO、さらには、CEOの役職に就いています。給与は職種の規模や分野、場所にもよりますが、確かにいえることは、ACAが多くの組織で重要な職位に就き、重責ながらその見返りも十分に得られているということです。ACAは会計プロフェッション全体を形作り、ビジネスを牽引しているのです。これを踏まえ、ICAEWや日本公認会計士協会(JICPA)といった会計職業専門家団体は、優れた才能が育成されるよう、人材育成のための教育カリキュラムを定期的に見直していく必要があるのです。

適切な水準を維持するために、国際的な協調も欠かすことができない重要な要素です。会計職業専門家がグローバルな社会で活躍するためには、国を越えて互いに学び、知見やベストプラクティスを共有することが必要です。ICAEWは、グローバル経済において財務に関わる専門家が果たす重要な役割を支援、開

発、促進することを目的として設立された、世界の主要な勅許会計士団体から構成される「Chartered Accountants Worldwide」の創立メンバーです。同団体が目指すのは、会計及び倫理の実務で最高品質の基準を促進し、勅許会計士が、会計職業、金融及びビジネスの分野において卓越した地位を維持できるように、知見や新しい試みを共有することです。

会計職業専門家への道

会計職業専門家にとって特に重要となるのが、「包摂性(inclusivity)」を維持することです。すなわち、会計プロフェッションを向上させるために、世界各国の団体と協働し、門戸の解放(Open Access)に努めることです。私たちは今、容易にコミュニケーションをしたり国境を越えて移動したりすることができるグローバル社会に生きています。社会は多様性を増し、学習手段にも幅が広がりました。会計職業専門家は、これらを取り入れ、世界のほかの地域の関係者の知見やスキルを上手に活用する必要があります。女性の会計職業専門家の昇進を引き続き促していくことも重要です。研究結果から示されるように、これは、単に基本的な公平性の問題ということではなく、多様なバックグラウンドを持つ役員から構成されるほうが、組織として、より生産性が高いということでもあるのです。生涯学習は、男性にとっても女性にとっても重要であり、会計職業専門家団体には、この重要性を強調し、性別や文化の多様性の促進に貢献することが求められています。「包摂性(inclusivity)」はまた、所属意識という文脈でもとらえることができます。会計職業専門家は、互いに自由に



意見を交換し学ぶことができる、大きな家族の一員であると考えべきでしょう。さらに、キャリアをいったん中断する決断をしたメンバーが、後れをとらず、スキルを維持できる体制を整えることも重要です。特にこれらのメンバーが、職場に復帰する意思があるなら、なおさら大切なことです。キャリアの全ての段階において、会員が支援を受けられることが重要です。

世の中の情勢は変わり続け、会計や財務の専門家も進化し続けています。こうした専門家の品質の根底にあるものは、専門家のメンバーとして優れた素質と才能を備えた人材に最高品質の厳格なトレーニングを提供することだけを担保すればよいということではありません。幅広い視野を持つこと、そして、順応性(adaptability)を絶えず育成することもこれに含まれるのです。未来の優れた会計職業専門家とは、直面する課題や機会に迅速に対応できる者を指します。では、どのようにして、そうした人材を育成できるのでしょうか。それは、私たちの基本となる価値観や姿勢に立ち戻ることです。専門家意識、判断、そして、何よりも誠実性(integrity)などの、専門家としてカギとなる主要な特性に焦点を当て、将来の会計職業専門家がどんな状況にも立ち向かえるように、しっかり準備を整えることです。新しい機械装置に慣れたり、特定のルールに従ったりすることは誰にでもできます。大切なのは、それを下支えする基本理念を正しく理解することなのです。会計職業専門家が信頼と最高品質の基準のために行動していることが明らかである限り、会計職業専門家を雇用する者は常に安心して事業に従事することができるでしょう。



Interview インタビュー

Q 会長就任時に、あなたは「順応性(adaptability)」や「包摂性(inclusivity)」を基本的な方針として位置付けました。なぜ、そうしたテーマが重要なのでしょうか。また、今後、どのようにこれらの方針に沿って活動を行っていかれるのでしょうか。

A これまでの私の話から、なぜ、順応性や包摂性を受け入れる姿勢が重要であるか、おわかりいただけたと思います。順応性と包摂性によって、ICAEWの進化が可能になり、次世代の会計士のための、より強い組織に進化していくことができます。私はこれらの価値観を体現するために、会長に就任して以降、変化を受け入れ、なるべく多くのメンバーに会うようにしています。

Q ICAEWは加盟団体メンバーの組織であると同時に、会計職業専門家団体であり、会計職業専門家のためのアドボカシー団体であり、また、公共の利益に則して行動する団体でもあります。これら複数の役割をどのように均衡させていますか。また、ICAEWが英国の外にいるメンバーの見解にも対応する必要性が高まっていることに対して、ICAEWはどのように対処しているのでしょうか。

A 現在、ICAEWには、英国外に永住しているメンバーが約2万2,000

名おり、海外出張や勤務を含めればその数はさらに多くなります。海外の学生数も、近年、急増しています。ICAEWは、彼らのニーズに応えるために、海外事務所や各国の連絡担当者 の設置のほか、メンバーグループや国際選挙区を理事会の議席選挙に加えるなどの対応をしています。オンラインでのサービスも、近年、急速に充実してきました。それに加えて、グローバルに活躍する会計職業専門家を育成するための、途上国におけるキャパシティ・ビルディング活動も含めて考えれば、公共の利益に則して、現代の会計職業専門家団体が提供し得るあらゆる活動を行っていることがおわかりいただけるでしょう。

(日本公認会計士協会事務局

渡場友絵)

<注>

- 1 ICAEWの概要及び活動状況については、Annual Review 2015 (<http://www.icaew.com/-/media/corporate/files/about-icaew/what-we-do/annual-review/2015/icaew-annual-review-2015.ashx?la=en>)を参照。
- 2 会計テクニシャン資格は、会計事務所内又は企業内等で勅許会計士の業務を補助する役割を担う会計スタッフのための資格であり、世界90か国に約13万名の会員がいる。詳細は、ウェブサイト (<https://www.aat.org.uk/>)を参照。
- 3 “From the top: Hilary Lindsay” The Economist, 2016 July (<http://economica.icaew.com/opinion/july-2016/from-the-top>)